

かど福祉会 特養 ^{のぞみ の さと} 望海の郷

かどノーリフトケア

「ひとりひとりの笑顔のために」



● 濱田 宏美 (CW)
大野 倫由 (PT)
川村 和巨 (CM)
松山 真也 (CW)
濱田 昌利 (CW)

H28年1月末作成



かど福祉会

特養 望海の郷の紹介

平成12年10月1日：「介護老人保健施設 上ノ加江」開設

(介護老人保健施設事業、短期入所療養介護事業、通所リハビリテーション事業)
：併設診療所「上ノ加江クリニック」併設

平成14年10月24日：居宅介護支援事業所「居宅介護支援事業所 上ノ加江」開設

平成23年8月：「特別養護老人ホーム 望海の郷」移行

(介護老人福祉施設事業、(介護予防)短期入所生活介護事業)
：(介護予防)通所リハビリテーション事業から
(介護予防)デイサービスセンター 上ノ加江 移行

特養 望海の郷

多床室48床

ユニット型個室10床×2

ショート10床

合計 78床

上ノ加江クリニック(医師1名)

通所介護 上ノ加江(定員40名)

居宅介護事業所 上ノ加江



ノーリフトケア 理念

～H27年ノーリフトティンキングケア研修参加 県社協主催の他研修会からも～

下元 佳子 氏



4 保田 淳子 氏

看護現場において腰痛の発生する場面として、「移乗介助」「トイレ介助」「ベッド上でのおむつ交換」「入浴介助」などが最も多い状況で発生します。本人が抱えられない重さを持ち、足や膝関節の関節の圧力（30kg以上）が関節に負担をかけている。これが腰痛の主な原因であると考えられています。また、ケアの負担にも大きく影響すること、施設や現場に行くたびに実感しています。たとえば、移動や移動の要は、あるいは高度介護を要していくと、人の力による無理な移動や移乗に転倒していることが多々あります。



海外では「Zero Lifting Policy（ゼロリフトポリシー）」、「Zero Lift Policy / Safe Patient Manual Handling（ゼロリフトポリシー）」のようにより、2000年代より看護職や介護職の腰痛予防対策を実施し、労務管理や業務改善などを通じて腰痛発生率が下がりました。そして、介護者は自分自身で動くことを奨励され、「リフトサポート」などの器具の活用が腰痛のリスクを減らすのに有効とされる場合は、必ずそれを活用する。これがケアの標準とされています。日本と諸外国との腰痛発生率の差を数値や文化的価値として見比べてみてほしいと思います。

日本においても2005年、厚生労働省が20年以内に腰痛予防対策を徹底し「人による搬上げを禁止」しました。しかし、日本で一般的な腰痛予防対策方法が普及促進の場になることが腰痛予防対策の普及に該当することは、ほとんど知られていません。日本の看護職や介護職が腰痛予防対策を知らないことが、腰痛発生率の低下につながっていないのではないかと、日本に

3 窪田 静 氏

ノーリフトから始めよう
「全人的褥瘡看護」
3つの軸

窪田 静
www.nursing-care.com



- 1. 生活支援「リフト」をゼロにする
- 2. 褥瘡発生を予防する環境「ゼロリフト」を構築する
- 3. 移動・移乗作業に「ゼロリフト」を構築する

① 介護職員 = 腰痛対策 & 業務改善

『リフト(福祉用具)を使うのがノーリフトケアではないですよね。』
(H27年ノーリフトティンキングケア研修より)

② 入居者 = 自立支援 & 生活拡大
(健康増進も含)



かどノーリフトケア ～ 本研修の成果ポイント ～

かど福祉会 望海の郷 施設理念

『ひとりひとりの笑顔のために』

ノーリフト研修に参加して、良くなったポイント

- ①福祉用具を用いた環境調整
- ②ノーリフトケアの職員研修を実施
※必要な入居者への現場研修後の紹介
- ③ケア現場の体制構築
- ④個別ノーリフトケアへの取り組み



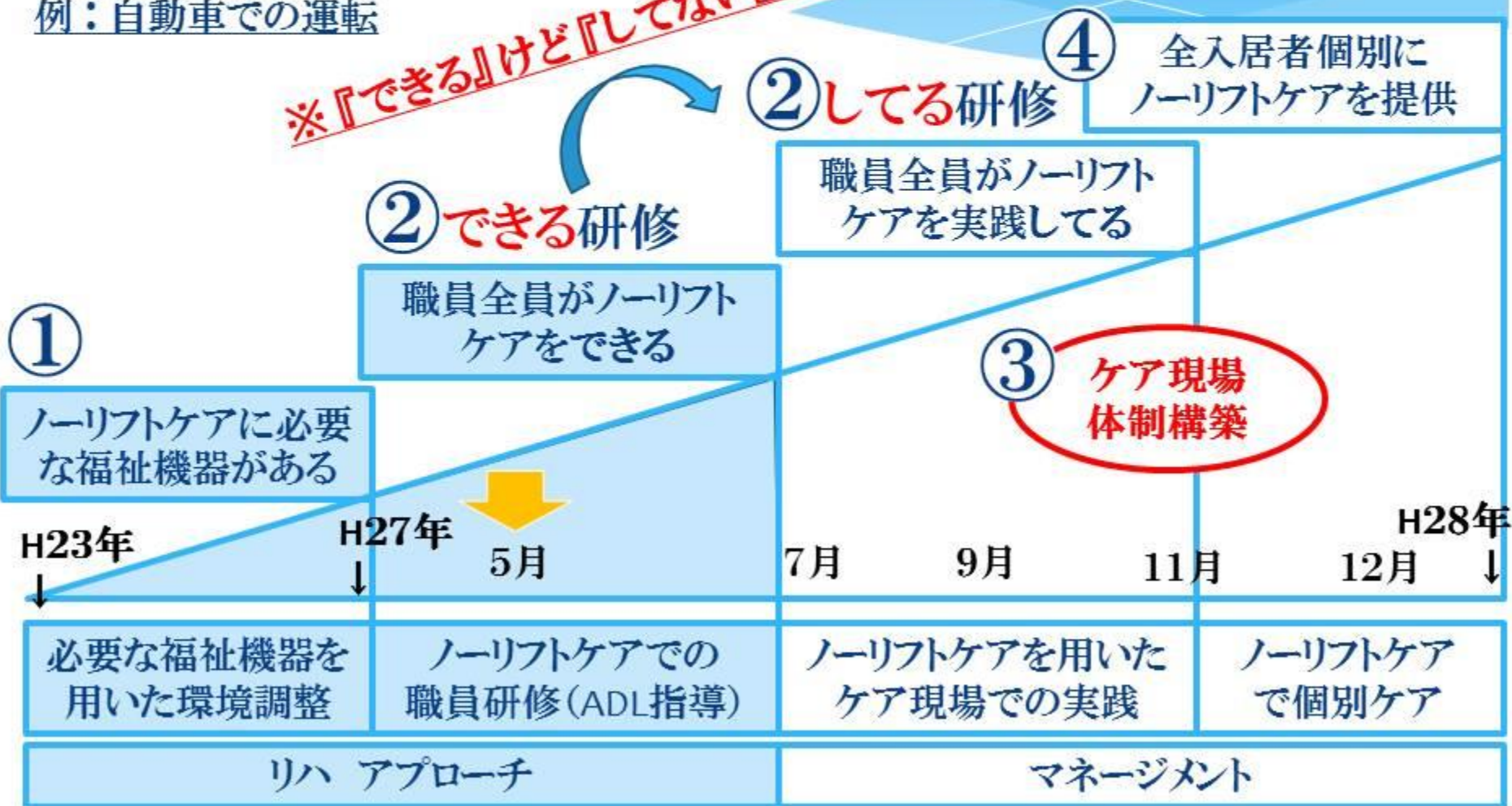
かどノーリフトケア計画概要

～リハアプローチから

マネジメントへ～

例：自動車での運転

※『できる』けど『してない』!



② してる研修

② できる研修

職員全員がノーリフトケアを実践してる

職員全員がノーリフトケアをできる

③ ケア現場体制構築

全入居者個別にノーリフトケアを提供



かどノーリフトケア①

～福祉機器配置状況～

形態	部署名		職員	シート	ボード	スカイ	リフト	浴室
多床室	南の風	48床	17名	10枚	6枚	2台	2台	特浴
	しおさい							
ユニット	二丁目	10床	6名	2枚	1枚	1台	1台	個浴
ユニット	三丁目	10床	6名	2枚	1枚	1台	1台	個浴
ショート	一丁目	10床	7名	2枚	1枚	無	1台	

※ H28年2月の配置予定状況



かどノーリフトケア①

～福祉機器環境調整のポイント～

- ★基本的な配置は、**部屋数 ⇒ 日勤職員数**へ（コスト抑制）
- * シート&ボードは、ケア職員の意見から**小さな運びやすい**使い易い物（シートは3層ロール型、ボードはSSサイズを採用）
- * 車椅子は標準型調整車椅子を**年間3台**ずつ買い替え（10年で1サイクル）
- * グローブは、**一升瓶用ビニール袋**を使い捨てで使用（清潔面向上）
- ★**スカイリフト配置数を多く**（**自立支援**の為、トイレや脱衣場面で多用）
- * 床走行吊り上げリフトは、床面からの移乗や大柄な立位不可者の移乗
- * **トイレ用スリング**を使用しトイレで吊り上げリフトも活躍
- * 家庭用個浴で天井走行リフト
（浴槽使用&介助量軽減&空間拡大）

※福祉機器の環境調整は
試行錯誤しながら進める



かどノーリフトケア②

～職員研修の工夫～

(課題)

福祉用具を上手く使えない職員が多かった
介護職員35名中。使っている職員**7名**

(目標) 全職員が福祉用具を使えるようになる。

(方法) **リハ ⇒ 介護**

1. リハ室での『できるノーリフトケア』研修(知識・技術)
2. 居室での『してるノーリフトケア』研修(現場研修)

(結果)

使える職員数は全職員となる。(35名中 **35名**)

できるノーリフトケア後…35名中 **35名** ※H27年5月 ⇒ 7月

してるノーリフトケア後…35名中 **14名** 7月 ⇒ 9月

※必要な入居者には**現場研修**を実施(生活訓練として介護職員と共に実施)



かどノーリフトケア②

～リハ室の『できる』研修から 居室の『してる』研修へ～

『できる』研修

- * 場所: リハビリ室
- * 指導: PT⇒CW
- * 形態: 自主参加
- * 時間帯: 18時～19時
- * 内容: 実技中心
①臥位②移乗③座位
- * 頻度: ①～③を各3～4回/月

※結果: ボード&シートを
全介護職員が使用できる。

35名中 35名
※H27年5月⇒7月

『してる』研修

- * 場所: 各入居者の居室
- * 指導: PT⇒CW
- * 形態: CW遅出勤務中
- * 時間帯: 18時～19時
- * 内容: 実際の生活場面で実践
臥床介助を車椅子から実際に
- * 頻度: 全介護職員1回参加

※結果: ケア現場で介護職員の
14名が実践してる。

35名中 14名
※H27年7月⇒9月

※必要な入居者には現場研修 実施(生活訓練として)



かどノーリフトケア②

～研修後の移乗ケア&臥床ケア～

- SSボードで大車輪も楽々！
 - おじぎをしっかりとすることで、足底にしっかり荷重！
 - 前傾座位&下肢支持UP！
- 自立支援に！**



**ボード
SSサイズ**



**先に
敷く！**



かどノーリフトケア②

～研修後のトイレケア～

※ 必要な入居者の現場研修後



要介護5 全介助
チルトクライニング車椅子使用
ハイジーン スリングにて
スリング上でパット交換可能！
トイレ座位で**自然排泄が改善！**

- ・スカイリフトでトイレへ！
- ・二人介助から一人介助になる！
- ・スカイリフト使用で**安全に独り**で排泄可能！
- ・スカイリフトを後退させ**排泄良肢位の前傾座位可能！**





かどノーリフトケア②

～研修後の入浴ケア～

※ 必要な入居者の現場研修後



狭い家庭浴室



スリングで、共に楽に入浴可能！

狭い家庭浴の浴室でも
トイレ用ハイジーンで可能！
浴室の左右+上下に
作業空間が広がりました！

ハイジーンスリングで
ハット交換も可能！
(一度も持ち上げません)



脱衣場
スカイリフト



かどノーリフトケア③

～ケア現場の伝達システムと OJTの確立～

(課題)

実際のケア現場で伝達システムが、『伝達ノート』と『日勤申し送り』のみで**不十分**

(目標)

出来事のみでなく、知識や技術。各入居者個別の情報を確実に伝達できる。

(方法) **リーダー介護 ⇒ 介護**

1. 小グループに分けて、各グループのリーダーを作り伝達を確実にする。
2. 新しい職員(施設内異動も含)に教育係(教育マネージャー)も配置。

(結果)

- * 組織として取り組み、
全体的にケア職員の活動性が向上
- * 職員間の連携が向上
- * ケア現場での職員指導と確認が改善
- * 変更や新規情報の伝達が確実

※35名中 **14名**
→ **22名**

※H27年9月 ⇒ 11月



かどノーリフトケア^③

～ケア現場の伝達システム

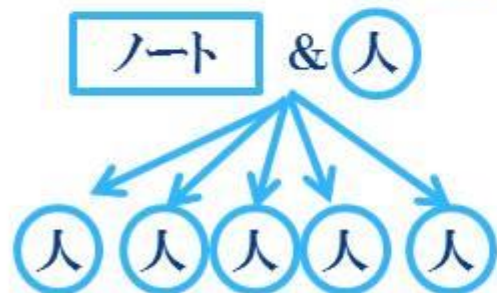
のイメージ図～

(方法)リーダー介護 ⇒ 介護

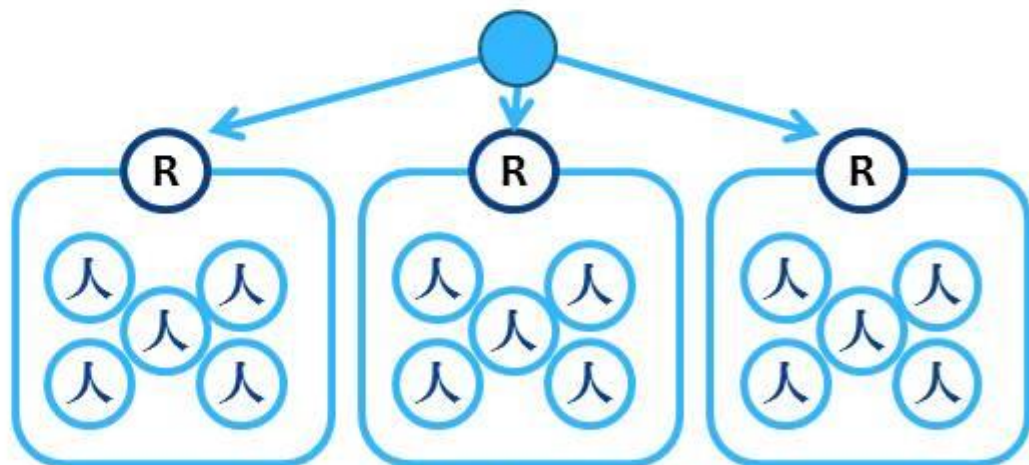
1. 小グループに分けて、各グループのリーダーを作り伝達を確実にする。

【イメージ図】

↓日勤申し送り



35名中 14名



35名中 22名

※H27年9月 ⇒ 11月



かどノーリフトケア④

～個別ノーリフトケアのため ケアプラン導入～

(課題)

入居者(ケアプラン明記)にノーリフトケアの導入が全入居者68名中 **2名**

(目標)

全入居者68名へ適切なノーリフトケアをケアプランに明記し実践している。

(方法)

①各入居者のカンファレンス(3ヶ月毎)で検討しケアプランに明記

②ケアプランに従い全職員へ伝達(各グループで確実に)

③ケア現場で実践しているかを各グループで確認

(結果)

①全入居者のケアプラン明記 68名中 **68名** (自立度が高い9名も含む)

②伝達は、『申し送りノート』と『日勤申し送り』と『各グループ』で行い改善

③確認は、各グループで確実に全職員行えるように改善 (ショート除く)

※H27年8月⇒H28年1月現在(ショート除く)



かどノーリフトケア④

～個別ノーリフトケアへ カンファレンス内容～

- * 参加職種：CM・介護・理学・看護・栄養
- * 形態：各入居者のカンファレンスごとにノーリフトケアを導入
- * 時間：15時30分～16時
- * 内容：入居者の移動状態をPTが身体能力を評価し、移動方法について相談しながら進めていく。(予後と自立支援を考慮)
- * 頻度：3ヶ月に1回
(必要時はその都度、関係職で現場にて開催)
- * 結果：全入居者 68名のケアプランにノーリフトケアでの移動方法を個別に明記でき実践できた。

※ケアプランは入居者を良くする為の計画である。
かどノーリフトケアが入居者の自立支援、生活拡大に
目的が変わった事で導入が大きく進んだと考える。

68名中 68名
(ショート:10名除く)

※H27年8月⇒H28年1月現在



かどノーリフトケア まとめ

～ 全入居者にノーリフトケアを提供する為に ～

『ひとりひとりの
笑顔の為に』

全入居者個別に
ノーリフトケア提供

ケアプランに導入と実践

ケア現場の伝達システムがある

全介護職員が福祉用具を使用してる

全介護職員が福祉用具を使用できる

福祉用具の適切な選択と配置数を配置している

※ノーリフトケアは、
入居者を良くすることで、
介護職員も共に良くなる。

※医療&介護は、
患者・利用者
の為のサービス

入居者の為の
ノーリフトケア

ケアプラン



かど福祉会 望海の郷 ご清聴ありがとうございました

かど福祉会 望海の郷は、入居者と職員、かど福祉会
に関わる全ての人達が笑顔であふれるために、今後も
一生懸命に取り組んでいきたいと想います。

『ひとりひとりの笑顔のために』